

令和２年度 第４回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日 時】 令和３年３月２３日（火） １３時００分～１６時３０分

【場 所】 飛騨市役所 西庁舎３階 大会議室

【出席委員】 １８名中１６名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 森会計管理者 泉原総務部長
藤井市民福祉部長 大坪環境水道部長 青垣農林部長 清水商工観光部長
青木基盤整備部長 谷尻教育委員会事務局長 中畑消防長 佐藤病院管理室長
野村議会事務局長 野村河合振興事務所長 田ノ下宮川振興事務所長
森田神岡振興事務所長 上畑財政課長（１８名）

【事務局】 岡部企画部長 三井総合政策課長 土田係長 井口主査 柚原主任（５名）

【傍聴者】 ２名

【会 次 第】 １．開会

２．委嘱状交付

３．市長挨拶

４．会長挨拶

５．協議

① 令和３年度当初予算の概要について …… 資料①

② 令和３年度当初予算の編成検討資料について …… 資料②

③ 自由討議

６．その他

７．閉会

【議事内容】

１．開会【岡部企画部長】

令和２年度第４回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は２名のご都合により欠席であるが、委員１８名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第６条の規定により定足数に達していることを報告する。

２．委嘱状交付

今回、委員の交代があったのでご紹介する。古川町区長会長と河合町自治会長の２名が今回新たに交代された。本来であれば市長から委嘱状を交付するのが本意だが、時間の都合上机上配布をもって交付とさせていただく。

会長職務代理も交代となる。飛騨市総合政策審議会設置条例第５条の規定により、会長職務代理は会長の指名によることとなっている。

【会長】 A委員にお願いしたい。

【岡部企画部長】 A委員よろしく願います。

3. 市長挨拶【都竹市長】

先週議会が終わり、本日議題にしている令和3年度当初予算が成立した。一般会計186億円、合併後5番目の規模である。コロナ禍での予算ということで、コロナ対策の中で得られた知見、経験、視点を活かすことを今回重視した。

その中では、やはり身近な生活の中の願いのウエイトが非常に大きいと感じ、逆にコロナの中の経済や社会の動きを踏まえて編成した事業もある。また、市の大きなテーマである「誰一人取り残されない思いやりのあるまちづくり」という観点の中、弱い立場の方々の支援についてはさらに一段力を入れた。地域資源の発掘・活用も更に内容を拡充しており、こうした点が今回の予算の特徴である。

この審議会で様々ご意見をいただいているが、一つ一つ丁寧に議論させていただきご提言を基にした事業もあることから、そうした意味ではまさしく総合政策審議会の皆さま方と一緒に作り上げてきた予算という思いである。

本日の会議では、こうした予算を報告する事が一つのテーマだが、市の予算とは、今後粛々とやるということではなく、やっている途中でうまくまとまらなかったものや、時間切れで検討し尽くせなかった施策が色々あり、4月の頭から令和4年度予算あるいは補正予算に向けて検討していくという方針でいる。今日のご議論の中でのご提言を新年度すぐに検討を始めることから、忌憚のないご意見を賜りたい。

ちなみに、詰めきれなかった施策、もう少し早く議論を始めるべきだった施策、3月議会でご意見いただいた分野などもあり、例えば自然環境保護や景観の保全、食育などは市政としてまだ体系立てて取り組めていない分野であることから、こうした分野は新年度の春先から議論を開始し、なんとか形にしていきたい。

なお、全国ではコロナ禍での税収減により厳しい予算になると言われ、本市も市税を1.5億円減収として見込んでいるが、本市のような自治体は地方交付税などでカバーされる仕組みになっており、財源的に不足するという思いは持たず予算を編成した。更に、ふるさと納税が1月から12月末までで15億円という大変大きな金額をいただいております、半分の7.5億円を活用できるが、去年までは4億円、今回の予算では5億円を使わせていただくことにした。コロナ対策については、結果的に国・県の交付金でほぼ賄えており、新年度に2億円強を繰り越すことができ、令和2年度は国・県交付金の範囲で全て実施出来たという状況。除雪費について、今年は降雪により除雪予算3億円に対し結果6億円かかったが、国からの特別交付税と国土交通省への強力な要望により大変大きなご配慮をいただき、3億円ほどご支援頂けたことから一安心している。

最後にコロナ対策だが、第9弾の対策を打って社会経済を動かすことを行っているが、目下の最大の関心事はワクチンをいつ打てるのかということ。医師会と綿密に協議させていただいており、本市については個別接種を基本にしている。体制は整っており、コールセンターの方も契約を済ませた状況だが、ワクチンが入ってくる見通しが立っていない。

接種順位は、まず医療従事者、それと並行して高齢者を打つ。高齢者も施設に入所している人を先に

打つ。そこで働いている人も合わせて打つ。簡単に言うところといった順番。

高齢者向けは4月19日の週に一箱、487人分が入っている。その次週にもう一箱487人分入ってくるが、その後の配分予定がまだ来っていない。両方合わせて970人ほどであり、高齢者全体6,000人くらいであることから全然足りない。医療従事者も5月に入れば、連休明けぐらいには大体の分が確保できるのではないかとこのところ。

経済対策等は第9弾まで打っているが、緊急事態宣言が2月末をもって解除されているものの市内飲食店・宿泊施設は動いておらず、大変厳しい状況が続いている。特に飲食店等は多少人の動きが出てきているが、大人数での宴会等の徹底回避ということを県から呼びかけられていることもありほとんど動いてない大変厳しい状況。また、古川祭・神岡祭ともに事実上の中止状態であり、祭りに伴って動く経済が大きいことから大変懸念している。今後追加対策を議論していきたい。

市としては状況変化に応じてとにかく迅速に対策を打つという姿勢をこれからも堅持して対応していきたいと考えているところであり、いずれにしても今日の総合政策審議会において活発なご議論をいただき、様々なご意見ご提言を頂戴することをお願いし、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

4. 会長挨拶【会長】

昨年度までは3回だったが、今年度から第4回目をやるということで、実際に来年度の事業が確定したという段階での審議会になる。

市長の挨拶にあったが、この中に反映されていないもの、あるいは形は決まったが詳細が決まっていないものなどもあり、皆さんから様々なご意見を頂きたいと思っている。

私自身、3月になってようやく緊急事態宣言も解除され少し動けるようになり、飛騨市ふるさと種蔵村の村議会を開催させていただいた。市長にもご出席いただき、会場の公民館に19人ほどお集まりいただきとともにオンラインで16名ほど参加をいただいた。東京の方にもご参加いただき、オンラインという形でこれまでに無い関わり方ができるようになってきた。

コロナがきっかけではあるが、こうした技術の導入により広がりを持てており、色々な人と関係を持ちやすくなっている。face to faceは難しい状況であり、外への広がりという意味ではメリットもあるのではないかとこのところ。

もう一点、1年ぶりに飛行機に乗り熊本の水害視察に行ってきた。球磨川が昨年7月豪雨で大規模な災害になったが、飛騨川や宮川の風景に似たところで川沿いにある集落がことごとく水害で家が本当に壊れている。水がついただけではなく流されて崩壊し、まるで津波が去った後のような状況を体感し、今までは考えられないような大規模災害が起こるというのは、たまたま熊本だったというだけで、日本全国で可能性があるということに対して、私自身も防災をやっている者として少しまた身が引き締まる思いをしており、地域の力がより一層必要な時代になっていると思っている。

飛騨市はまさに今日ご出席の皆さんを始め、市民の力が非常に強い地域だと思っており、今日も忌憚のないご意見を頂きながら、よりよい飛騨市へ、そしてみんなの生活がより良くなるようなことに向けて議論をしていければと思っている。

5. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項①について説明。（資料①）

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

－ 意見なし －

【会長】 協議事項②について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項②について説明。（資料②）

【会長】 協議事項②について、政策を作っていくプロセスの説明を頂いたが、なかなかこうしたことは聞けないので、私としてはとても興味深い。
それでは、皆様からご意見ご質問をいただきたい。

【〇委員】 9ページの消防団の入団促進について、もう少し詳しく説明いただきたい。

【中畑消防長】 当初、記載のように消防本部が所有する消防車のシャッター部分を広告塔として活用し、ご寄付をいただいた企業のPRを含めて出来ないか検討したが、寄付という行為が難しく、様々検討したが企業のメリットもあまり無いということから事業を断念し、市内80社ほどの協力事業者様に車両用マグネットシートを配布し、消防団入団促進を行いたいと考えている。

【〇委員】 法的な問題は。

【中畑消防長】 法的には問題はないが、事業者さんがそうしたPRを行うことが難しいという意見もあったことから今回は断念したところ。事業者PRは行わないが、消防団募集のものは載せる。民間ではこうした車両広告が行われていることもあり、こうした施策を検討した。

【I委員】 公共交通二種免許取得補助金について、免許を取得された方が1年足らずに転勤、もしくは辞められる場合について、どう考えているか。

【泉原部長】 取られた方については市内で事業者としてやって頂きたいという思いがあり、要綱では取得後1年未満での退職等は補助金返還も考えている。

【E委員】 前回会議時にお話しした件について、今回のこのような形で政策形成の資料をお示しいただき、市政の中で見えづらい部分が詳らかに開示されて非常に素晴らしい資料だと感じた。

【J委員】 住宅リフォーム補助金事業について、エアコン設置に偏ってしまったと説明があったが、逆に言うとそれだけ付けたくてもこれまで付けられなかった人がいたのかなとい

うのが率直な感想。また、あっという間に終わってしまったという方が多数見え、今回この補助金のことを市民が聞き漏らすことがないよう、どのようなPRを事前にされるのか確認したい。

【青木部長】 次年度は夏頃までの募集とそれ以降というようなイメージでPRしていきたい。前はコロナ対策ということで1年限りの事業だったが、今回は3年間の事業期間を設定したことから、その辺をアピールしながら慌てることなく3年間の中で計画的にやっていただきたいと思っている。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】 子どもたちの部活動について、土日や放課後に実施されており、教員の働き方改革で部活動指導者が必要だと思うが、飛騨地区には様々な種目の指導者が多くみえるとは把握していない。今後どのように計画を立てていかれるのか伺いたい。

【B委員】 河合町で耕作放棄地が増えてきている。昨年まで各種業者をお願いし米作り、牧草作り等を行っていただいたが、今年あたり減ってくるという話を聞いた。就農者は高齢者が多く後継者もない。耕作放棄地にするのではなく、古川地区などから農業をやってみたいという方が河合に来て農業を少しでもやっていただけないか、また、市でもそうした動きを応援していただけないか。

国道360号線、471号線あるいは県道に設置されているロックフェンス、ガードレールについて、雑木の伐採があまりされておらず、県でロードプレイヤーが草刈り等を行っているが、山手をやれる人が少なくなっており、県土木等へ要望をお願いしたい。袈裟丸の森林環境整備で山側の樹木を伐採してイノシシの防御に努めており、角川でも実施を検討しているが、用地や樹木の補償等がはっきりわかっておらず、お力添えをお願いしたい。

【C委員】 1点目は、障害者グループホーム整備に係る事前準備について、和光園の元の建物をグループホームにリノベするとのことだが、開設予定時期をお教えいただきたい。

2点目は、住宅リフォーム補助金について、去年は早くに予算が無くなり今回は年2回に分けて募集するということだが、周知方法を市ホームページだけでなく、年配の方にも配慮して区の回覧文書等で周知していただきたい。

3点目に、市のホームページのごみの分け方・出し方というページについて、五十音順でごみの種類を調べることができ、プラごみは青、紙はオレンジ、燃えるごみは黄色と色分けがされており、年配の方にもわかりやすい。現状でもクリーンセンター等で特段問題がなければいいが、分別に手間がかかっているようであれば、ごみカレン

ダーと合わせて全戸配布されたらどうか。

【D 委員】 新年度に多くの新規・拡充施策があるが、限られた職員数の中、業務量の増大に伴う職員の負担についてご考慮いただきたい。そうした中ではあるが、新型コロナに関する問題がさまざま出てきて、なかなか長期に計画立てて対応する事ができない中、都度突発的な対応をいただき感謝する。

コロナワクチン接種について、昨年度のコロナ対策として高齢者のインフルエンザ予防接種の無償化が行われたが、ワクチンの供給量が追いつかず利用できなかった方もたくさんいたと聞いている。現在、政府がワクチン調達に動いているが、高齢者の一般接種ができるのは市長もおっしゃられたように5月下旬から6月というところ。飛騨市医師会としては全面的に協力させていただく所存であり、その際にはいろいろと支援をお願いすることもあるかも知れないが、よろしく願いたい。

【E 委員】 介護報酬が今回 0.7%のプラス改定となり、基本報酬も若干のプラスということだが、逆にこれまで加算であったものが基礎部分に吸収されるなどもあり、加算を取るよう細かい所を見ていかないと事業も難しいと考えている。Life(ライフ)というシステムを使いPDCAを回すことをしているが、こうした仕組みもしっかり理解して取り組んでいかなければならず、市とも協力しながら勉強して取り入れていきたい。

政策にある「誰一人取り残さない」について、福祉で言えば介護や障がい、保育といった分野をしっかり繋ぎ、取り残される方が無いようにということだと思うが、社会福祉法人としても地域に貢献できるよう考えている。例えば、市の障がいデイサービスを使っている方が、介護度が付いて要支援などの区分になると、年齢によって介護保険制度を優先することになり、これまで障がいデイサービスを週3回利用してきた方が、週1～2回しか利用できなくなる。こうした方は障がいの施策と合わせて救っていくことをこれまでも行っており、サービスの分野が違ってもシームレスに繋げていくことを我々も模索し、市とも協力して「誰一人取り残さない」を目指したい。

介護人材について、介護施設における看護師確保が課題となっており、病院でも苦慮されていると思う。地域にどれだけ潜在看護師がいるのかという中で、福祉を手伝っていただける看護師をずっと探しているが、なかなかいないのが実情。看護師の配置は介護保険上も規定されていることから、ご検討いただければと思う。

【F 委員】 今年度は小中学生のスキー無料券について、非常に喜ばれた声を周りの皆さんから聞いた。私自身スキーが苦手で夫も忙しくてスキーを教えられず教室に入れているが、こうした市民に対する何等かの補助があるとよいのではと感じる。

今後、コロナワクチン接種が進み、いつかはマスクを外すタイミングが出てくると思う。夏場の熱中症対策時にもかと思うが、そうしたお知らせを学校・保育園などから発信していただきたい。マスクをしていると表情が本当に分からず、子ども達も不安に思うことがいっぱいあると思う。

【G委員】 過日、防災士講習会を 55 名の方が受講され、一番下は小学生から中学生、高校生と割合若い人が多かった。合格者数は把握していないが、防災士会に加入いただくよう勧めていただきたい。コロナ禍では研修を進めることが難しいが、資格を取得して終わりではなく様々な講習会や現場のリハーサル等、防災士がもっと活躍できるように進めていきたいと思っている。

別件だが、消防団には冬用長靴が無い。防寒着は合併当初に準備していただいたが、薄いゴム長靴では足が非常に冷たいので、支援をお願いしたい。

先程、B委員からもお話があったが、農業の担い手へ預けた農地が、担い手が辞められるということで地元に返還されてきた。耕作をする方がおらず保全管理だけという状態で、まだ耕作放棄には至っていないが後継者がいない。何か良い解決方法があったら教えて頂きたい。

【H委員】 今年農家さんとバラや蜂蜜などに関わらせて頂いている中で、どうしても色々なことがバラバラに動いている実感があったが、食のまちづくり推進課が来年度設置されることは素晴らしい事。一方で、出口は商工課や観光課も連携が必要かと思っており、様々な相談を受けている中で、農林部は農林業の方のものという感じで、一般には少し遠く感じる面がある。商工課や観光課のほうが日々の生活に近いような感覚もあることから、連携して動いていただけたらと思う。

広葉樹のまちづくりで、飛騨産広葉樹を活用した木製品の公共施設等への導入という新規事業があるが、まちづくり拠点 NODE (ノード) にも入れていけたらと思っている。実際に NODE も木を使った設えにしているが、来客から飛騨市の木なのか、広葉樹なのかということをよく聞かれる。少しでもご検討いただければ。

それから、NODE 2 階のテレワークスペースの整備については、実際には既に 1 階でテレワークが十分使える状態であり、2 階はデイワークや会議スペースという話もありつつ、映像配信や撮影スペースにしてはどうかという意見もある。利用者のご意見を私たちも聞いていきたいと考えており、臨機応変な対応をお願いしたい。

最後に、市政世論調査の報告書を興味深く拝見させていただいた。令和 2 年 9 月実施ということだが、定期的に今まで行っているのかをお聞きしたい。また、結果がどう変化したのかを追えると、力を入れた方がいいポイントが見えてくと思う。特に聞こえてくる声では、区長配布が難しくなった地区があり情報が入ってこなくなったという声を聞いた。私は飛騨市に移住してきた時に全戸配布・区長配布があることが本当にすごいシステムだと思っていたところであり、無くなってどう変わったかなど過去の資料から読み取れるのかなと思い意見させて頂いた。

【I委員】 市政世論調査について、市民の声を新たな政策に盛り込む点などもあったのかどうか、また、年代別の標本数と回答率代別割合もあわせてお教えいただきたい。

今年の 4 月に高齢者の雇用安定法が改正され、65 歳まで継続雇用が義務化だったものが 70 歳までの努力義務に改正され、今後は努力義務から義務化に変わる可能性も

ある。アンケート結果を見ても現役の働いてみえる方々が多くの不安を抱えている中で、人材育成も含め皆が安心して働き続けられる環境を飛騨市ビジネスサポートセンターも絡めながら、どう支援していくのかをご検討いただきたい。

次に SDGs について、市民の理解度に差があり、飛騨の中でもゲームを活用した研究会による取り組みもされているが一人ひとりには浸透していない。吉城高校でも YCK プロジェクトの中で取り組んでおられるが、小中学生くらいからでも SDGs に触れる機会を取り入れるなど少し力を入れられたらどうか。

【J 委員】 社会的孤立の方への相談支援、空き家対策、結婚・婚活の応援について、具体的な活動と成果をお伺いしたい。

公共無線 LAN、Wi-Fi スポットについて、観光客対象だけではなく地元中高生など端末だけ持たせて連絡を取るという便利な面もあることから、公共施設にはできるだけ、建物以外の場所であっても拡大を検討いただければと思う。

また、SDGs について、子どもながらに環境に関心がある子が多いと思うことがあった。ぜひ今のうちに飛騨市の広葉樹を含めた森林資源、水資源の保全について取り組んでいただきたい。

【K 委員】 コロナ禍の知見を活かすというお話があったが、学校では教育活動が停滞することがないように大変な努力をされてきたと思う。これまで子ども達のために肥大化した事業については、働き方改革の中でスリム化をしながら取り組んでいただきたいと思う。市民スポーツについて、体育協会が組織改編されるとのことで、飛騨市全域で市民大会に参加できる環境を作っていくとされているが、実際にこの広域の中で進めるにあたり資金的な不足が目立つようである。普段参加されない方もスポーツに親しんでいただくということは大変素晴らしいことであるが、この改編により無くなってしまうことが無いよう支援をお願いしたい。

【L 委員】 広葉樹のまちづくりについて、来年度本格的に動き出すような政策が出ている。森林環境譲与税を活用されるかと思うが、そのことについて市民や議会でも理解が進んでいないように見受けられる。しっかりと説明をお願いしたい。

ナラ枯れについて、先日の日本経済新聞に、「飛騨市の広葉樹の取り組みが、放置して巨大化しナラ枯れを起こす負のサイクルを断ち切り、本来の森林資源の循環を取り戻すきっかけになる」と掲載され非常に注目を浴びている。その中で、資料にある「持続可能な広葉樹林業確立に向けた研究の実施」は、日本では初の取り組みで非常に期待が持てると思っており、森林組合も必要な機材等全て揃っていることから、協力させていただければと思う。

森林整備事業については、国県から 68%の補助金があり、更に補助残を市に助成していただいているが、もう一つ同じ事業の中に刈って新植する場合、県で 17%上乗せされる制度がある。現在、県予算が確定していないが、この 17%上乗せ助成が全てカットされるという情報が入ってきており、この補助残についても市で支援いただいた

い。これはひいては森林所有者への還付金になることから、森林整備の推進に支障を来す恐れがある。ご検討いただきたい。

【M委員】

昨年度からお願いしていたイチゴやきくらげの生産について、揃ってスタートできるのが今年の秋頃からと思っている。色んな助成を頂いているが行き詰った時には一緒に悩んで解決していただきたいと思う。

地区の祭が中止になる中、お酒が売れないと酒米を作れず、農業者にとっては死活問題になることから、対策をご検討いただきたい。

農林部に食のまちづくり推進課が新設されるということで、物を売る、人を育てるという部分に新しく取り組んでいただきたい。

「あねさの会」という飛騨地区の女性農産加工グループが活動を開始して 18 年程になる。当初、高山市中心に活動されていたが、現在は神岡の寒干し大根や河合野草茶の方々も一緒に活動されている。売り上げの中から活動の広告費を捻出するなど資金繰りに苦慮されており、高山市からは多少支援をされているようであるが、是非飛騨市からも少しでも支援いただければ、飛騨市の方もたくさん加入していただけるのではないかと思います。

飛騨市のうまいお米の販促支援事業にある米の講習会について、どのような講習会をされるのかお伺いしたい。飛騨の土地で作った米は何もしなくても美味しい。米をしっかり作ってもらえる後継者の育成を進めてもらえば知名度は上がってくと思う。

【N委員】

古川祭が2年連続して中止という形になり、一番懸念しているのは文化技術がしっかり伝承されるのかという点。神社としては、支援として各台組に補助金を出しているが対象にならない部分もあり、神社としても手厚い支援が出来ない。秋に屋台曳行等を行いたいという市長の考えを聞いているが、その際には、屋台だけではなく舞姫や闘鶏楽にも幅広くご支援をいただければ大変ありがたい。

宿泊支援に関しては、いち早くご対応いただいているが、緊急事態宣言が終了し皆様方がお出かけになりたいという気持ちがある中でも、やはり宿泊を伴う観光客は微増が現状であり、GOTO キャンペーンも不確かな点が多い。高山市では宿泊事業者に対し幅広く手厚く助成されているようであり、宿泊事業には食料卸からクリーニングなど関係事業者が多いことから、以前実施していただいた施策などのご検討をお願いしたい。

アフターコロナに向けた観光客受入体制については、宿泊事業の経営者は高齢者が多いことから新しい試みについて、後押しいただければ大変ありがたい。

宴会需要については、全然回復の目途が立っていない状況で、大人数の宴会は難しい状況ではあるが、市が率先して姿勢だけ市民に向けて表していただくようなことができないか。

【O委員】

事業承継のマッチング支援について、続けたいが後継者がいない、年齢的に廃業を考えるという声が聞こえているが、そうした方々に対し、マッチングをさせていただき

たいと考えている。日本政策金融公庫が対策を打ち出しているが、商工会議所としても新年度事業の中でウエイトを置いて取り組んでいきたいと考えており、是非市からもご支援を頂きたい。

流葉の夏の利用、神岡町の鉱山資料館、江馬館、火災跡地等の問題について、市長のお考えを聞かせていただきたい。

【会長】 市長からご意見を伺う。

【都竹市長】 B委員からの耕作放棄地の件については、非常に市民や議会からの声が多い。他方で、土地家屋の問題であることから市の手が一番届きにくい所であり難しさがある。私たちも何とかしたい、してほしいと思うが、簡単では決していないことをご理解いただきたい。担い手への集約が一つの方法ということで土地改良を進めているが、田が小さい、離れているなど条件が難しいところに加え、担い手の方々も決して多くはないことから非常に苦慮している。何かやればすぐ解決する問題ではなく、何十年も対策を打ち続けていかなければいけないが、やはり法人・企業として受託する農業者というものがあり、そこに就職してもらう形で田を維持していくことを将来的に考えざるを得ないのではないか。また、例えば都市部から来る方を地域おこし協力隊の形で確保していくなど発想を変えていかないと難しい。引き続き知恵を絞りたいと思っており、事業者や担い手の皆さんの考え方もすり合わせながら向かっていきたい。

県管理の国道沿いロックフェンスの雑木伐採については、県土木事務所といつも話をしており、具体のご希望の場所も区からも聞いている。区要望は逐一リストにして継続して議論しており、引き続き要望していきたい。

バッファゾーンの件は、農林部や河合振興事務所を通じ具体的にお伺いしたい。

C委員の和光園を活用した障がい者グループホームの整備については、令和6年度開設を目標に向かっているが、できれば前倒したい。躯体以外全てリニューアルする計画にしており予算は確保しているが課題は運営者。運営側に具体的な強いイメージと意欲を持ってもらうことが何よりも大事であり、そこに時間をかけたい。吉城福祉会に意欲的に取り組んでいただいている。

住宅リフォーム補助制度の申請タイミングを年2回に変更するが、ホームページだけではなく全戸配布等々でしっかり分かりやすく伝わるよう対応していきたい。

ゴミ分別の全戸配布については、結構なボリュームになることから、全体的なコスト等を見ながらこういった形がいいのか考えさせていただきたい。

D委員からのお話で新規事業に対する職員の負担については、事業の形を変えるなどしてバランスを取りながら進めている。全体に負担が多い状況は間違いなく、コロナ対策で更なる負担が増えている。仕事の上手なスクラップを含め引き続きバランスについて考えていきたい。

ワクチン接種については、引き続き医師会の全面的なご支援をお願いしたい。必要な

ものについては、随時お話をお伺いながら支援していきたい。国にも要望していきたいと考えている。

E委員からの科学的介護については、こうした分野で負担軽減や効率化に繋がる部分は大いに取り組んでいきたい。現場の声をお聞かせいただき担当課で議論させていただきたい。

制度の狭間の問題は非常に大きな問題だと思っており、特に障害者総合支援法から介護保険へ移行する部分が難しいところ。あまり深堀できていないのが現状で、飛騨市モデルのようなやり方があるのではと考えている。具体的な話を是非お聞かせ頂きながら一つ一つ解決していきたい。

福祉現場の看護師については、難しい大変な問題だと実感している。医療的ケアのある子たちを支援する事業所には看護師が不可欠だが就職先だと思われていない。看護師の就職セミナーにもそういった職種がほぼ出てこない。福祉現場の看護師採用について、早速考えていきたい。

F委員からの子ども達のスキー無料化については、大変ご活用いただき予算を大きくオーバーした。来年度も継続していきたいと考えており、合わせてスキー教室の件も早速6月か9月の補正予算で対応できるよう検討していきたい。

みんながマスクをしているという状態が解消されることについては、まだ数年かかるのではないかと見込んでいるが、コロナ対策をどう緩めていくかというタイミングにもなる。まだとても見通せないが、考えていきたい。また、夏期のマスク着用については、去年も熱中症対策の問題として呼びかけがさせていただいており、今年も早い時期から注意喚起していきたい。

G委員からの防災士のお話については、おかげ様で大きな数になってきており、フォローアップが大事になってきている。コロナ禍ではあるが引き続き強化をしていきたいと考えており、防災士会のお力をお貸しいただきたい。

消防団の冬用長靴については検討させていただく。

担い手に預けた田の件については、担い手そのものの人手不足問題が出てきており、預ける先がないという事態が訪れる可能性が出ていることから、喫緊の課題だと思っており、知恵を絞りたい。

H委員からの話で食のまちづくり推進課についてだが、全てに繋がる部分であることからどこの部に設置するか悩んだところ。農林部に置いたのは生産部分のウエイトが非常に大きく、販売部分は他部と比較的連携が取りやすいことから、生産者との関係を重視する考えから。元からどうやって販売していくのかを視野においており、今まで品目によってバラバラに担当していたものをなるべく一つに集約するという趣旨であることから、色々なところと連携しながらやっていくことに変わりはない。

ノードの広葉樹活用については、検討させていただきたい。

2 階の使い方は、臨機応変に使っていただいて結構でありそういう前提で考えている。

世論調査については、継続して初めて意味があると考えている。変化をどう見るかが大事。母数が非常に多いのが特徴であり、通常飛騨市の規模だと 500 ほどだが 2000 サンプル取っており、回答率も通常の行政アンケートが 3 ～ 5 割だが、飛騨市は 78.1% と遥かに高い。無作為抽出であり、母数を見ながら地区・年代・性別でバランスが取れるようになっている。各それぞれの回答数は「N=」という標記になっている。回答率が世代によって若干違うが全体としての意見は十分取れている。

区長配布については、全戸配布の負担が非常に多いと市議会からのご意見を受け、一時全て回覧にしたところ、苦情が大きく出てきたという経緯があり、全戸配布か回覧を各区ごとに選んでもらうシステムに変えた。これは市よりも区の方針であり、大変労力がかかっていることは確かで、その部分とのバランスで判断される。

I 委員からの高齢者雇用のお話は、言われるように 70 歳まで義務化される流れだと思っており、今以上の工夫が必要であると実感している。高齢者雇用の先進自治体や企業では、目が見にくくなることから明るくする、腰に負担がかからないよう作業台を高くするといったことを十数年前から実施されている。こうした先進企業の事例などを紹介するような取り組みを続けながら、環境整備や人材育成について深掘りしていきたい。私自身の考えでいくと、ホワイトカラー職で管理職を長くやっていると、書類を作るなど事務仕事をやらないでいることから、最低限身に付けていくようなことを心掛けていきたい。

SDGs については、そのものを PR するよりも、各企業・自治体に取り組むべきことで漏れていることがないかをチェックするリストのように活用するものではないかと考えている。総合政策指針策定時にもそうした考えを盛り込んでおり、SDGs は自治体がやっている事業ほぼそのものであり、まずは企業がそうした考えで活用いただき、その上で市民の皆さんも自分自身が出来ることを考えていただくために使っていただければと思う。

J 委員からの Wi-Fi 環境については、公共施設とまちなかの観光客向けの整備は進めているが、更に幅広くということになるとコストもかかることがあり非常に難しい。まずは観光用途及び公共施設を考えている。子どもたちとの連絡については、ある程度まとまった箇所があれば個別にお聞かせいただければと思う。

自然環境保護については、市としてやっている政策そのものであり、引き続き取り組んでいきたい。

K 委員からのスポーツ協会の再編についてだが、年度末にお話を頂戴し、市としても財政支援をさせていただくように今回予算化した。旧体制を取っているのが県内でも飛騨市くらいであったと聞いており、人が少ない中で旧町村を跨いで広く協議スポーツの振興が図られる体制が整ってくると思っているが、何せこれからであることか

ら色々な課題も出てくると思われ、資金不足問題も出てくると思う。よくお話を伺いながら市としてどこが支援できるのかを検討していきたいと思う。

学校教育の肥大化については、学校現場が非常にカリキュラムがパンパンの状態の中にあると言うことは重々認識をしており、バランスを取りながら教育を進めていくことが大事かと思っている。

L委員からの広葉樹の取り組みの件について、おかげさまで評価がずいぶん高まっており市の取り組みも進んできた。新年度予算でもかなり用意し全面展開で行きたい。森林環境譲与税については、色々な部分に使わせていただいているが、森林整備に使うことが趣旨であり、これから体制も整ってくる中でバランスを取りながら引き続き全面的に進めていきたいという思い。天然林の資源量調査についても引き続きご協力をお願いしたい。

県予算の上乗せの件については、そういった事情があれば規模感等相談させていただいて検討したい。

M委員からのイチゴやきくらげの件については、皆さん頑張って頂いており、市も都度支援させていただいているが、冬に稼げる農業の確立が大命題であることから引き続きご指導いただきたい。

まるごと応援セールについては、追加で何か対策を取りたいと検討を始めている。切り口は祭の酒需要にどう対応するか。蔵元の支援もだが、酒米についても非常に大きな問題だと考えている。小売りの問題が非常に大きくどういった対策がいいのか考えているところ。緊急事態宣言後、市内経済が思ったように動いていないことから、気分を明るくするような対策が必要ではないかと考えており、市内一斉に大売り出しをするような形で議論を始めている。

あねさの会については、十分承知しておらず、教えていただき市の支援を検討したい。

N委員からの祭伝承の件については、古川もそうだが神岡地区でも非常に深刻であるとお伺いしている。その意味では、秋に何らかの形で屋台曳行できないかと思っており、コロナ対策の中でどう実施するのかが当面の課題。一つのアイデアとして、ワクチン接種済の方を対象に、精度の高い抗原定性検査キットにより陽性でないことを確認した上で出演あるいは練習を行うということもあるのではないかと考えており、検査体制は国県も新しい取り組みを始め、市も色々な情報があることから万全の対策を取った上で実施していきたい。そうすることで皆さんに祭伝承を発表できる場を作ることができるのではないかと考えており、必要な経費は市の事業として補正予算で対応できるよう引き続き検討させていただきたい。

宿支援については、緊急事態宣言解除後ではあるが、観光客が戻っていないことから、もう一段対策を検討しできるだけ早くまとめた。

最後に大きな宴会に対する市の姿勢について、今議会でもそうしたご意見があったが、他方で、本日午前中にも県のWEB会議があり、4人以上の宴会回避を周知するよ

う依頼が出ている。県の対策は4月上旬まで続いており、花見、歓送迎会、謝恩会等の徹底回避と言われている。市としてはこれまでも感染対策を実施しマスク会食の浸透を図ってきたが、これだけ具体的に要請されると、市として率先して宴会を実施すると言えない状態で非常に苦労している。

他方で、飲食店や大きな宴会を実施する宿泊施設、酒小売など大変な打撃であることから、別の形で何等かの対策が取れるよう考えていきたい。

〇委員からの事業承継マッチングについては、対象者を地元で求めるのか、広く外に求めるのかにより手法が全く違う。他方で、新たに企業される方が非常に増えており、事業承継の魅力をどう見せるかが大きな問題だと感じている。特に移住定住を含めた外の方々へのマッチング支援も考えられてもいいのではないかと。市としてもどう対策を打ち出せるかもう一段検討したい。

私の考え方をということしていくつかいただいた件について、流葉の夏の利用は、今年から指定管理をしていただく newflow でも非常に大きなテーマとして掲げておられ、ゲレンデのキャンプ場としての活用というお声もいただいております、ドローンパークという形でドローン飛行場としても活用されている。色んな考え方を既にお持ちであり、市としても連携が取りやすくなったことから大いに進めていきたい。

鉱山資料館は、神岡まちづくり検討会議から、まずは鉱山資料館の活用という提言をいただき、令和6年が三井組が操業開始して150年という節目にもなることから、まずは今年度に施設の耐震性を調査し、よく見極めた上で中身のリニューアルについて財源確保を含めた検討に入る。既に神岡では鉱山を知らない子どもたちが増えていると強く感じており、一定年齢以上の方は鉱山の街だと思っているが、ある年齢以下では知られていない。そうしたことを伝えていく意味でも、鉱山資料館は大事にしなければならぬという思いでいる。

江馬館については、室町饗応膳や撮影イベントなど色んな活用を試みており、引き続き全力でやっていきたい。

最後に船津火災の跡地については、アンケートを取ったところ結果は千差万別で色んなご意見があった。市としての方針をこれからまとめていきたいと思うが、私自身は船津の街中の居住人口が減少していることから考えると、共同住宅として住宅需要に応えることができれば、行き交う人も増え飲食の需要も生まれると考えている。また、市ではなく民間の開発によって、例えば老朽化している飛騨市民病院の看護師住宅としても使える共同住宅なども考えられるのではないかと個人的に思いがあり、できるだけ時間をかけず何等かの形で賑わい創出ができるように考えていきたい。

【沖畑教育長】 A委員からの部活動の現状について、委員が言われるように教員の働き方改革が進んでいることもあるが、それ以前に子どもの数が減少していることが部活動の現状維持を難しくしていることの大きな要因。単独で団体種目の人数が揃わない状況が出てきており、部活動の数を減らすという選択に迫られているところ。文科省やスポーツ庁

からは、地域スポーツへの移行ということが以前から言われており、令和5年度までに土日の部活を地域へ移行する方向で進めてほしいという通達が出ている。議論は進めているが、しっかりした受け皿が必要であることから、移行出来そうな種目から準備を整え、出来ない種目については引き続き学校で部活動として教員が指導に当たっていくことになるが、生涯を通じてこの地域にスポーツを楽しめる受け皿があることが一番望ましいと考えており、今模索してるところ。

それからF委員からのスキー無料の件については、私もアンケートを見たが非常に好評であった。私が何よりも嬉しかったのは、親子の触れ合いの時間、対話が非常に増えたという声。これは続けることに意義があることだと思っている。言われるように親が滑れないというお声もいただいておりますので、また参考にさせていただく。

I委員とJ委員からのSDGsの学校教育については、議会でも答弁したが、現在全ての教科書にSDGsに関連する事柄が取り上げられている。今後もSDGsの意識付けをするとともに、教員の指導も進めたい。

K委員からはコロナ禍での学校教育についてお触れいただいたが、このコロナ禍では今までやってきたことの是非をしっかりと見直すことが出来た。コロナが終息しても、全てを元に戻すのではなく、得た知見は活かして変化させていこうと考えている。

【岡部部長】

H委員、I委員からご意見をいただいた市政世論調査について説明させていただく。本日配布させて頂いたが、今年度補正予算で対応し初めて実施したもの。出来たばかりで今日の審議会で初めて提出させていただいた。来年度以降も定期的に調査していきたい。お配りしたのは概要版であるが、詳細版は市ホームページや窓口において配布している。I委員からの年代別回答率の件については、標本数2000に対し回収1563ということで、年代別に分けて無作為抽出しており、手元で見た感じでは60歳以上が50%程度で20歳以下が7.3%であることから、少し高齢者に傾いている部分はある。しっかり分析し来年度以降に反映させたい。

J委員からの空き家対策について、空き家の利活用と保全という2点あり、利活用の部分では移住者向けということで、空き家を賃貸借住宅として活用する場合の改修費用に対し1/2で150万の補助を行っています。また、「住むとこネット」という空き家を掲載したホームページも運用している。その他、移住定住コンシェルジュという専門員を配置し、様々なご紹介をさせていただいているところ。

【泉原部長】

空き家の保全については、平成28年に空き家法に基づく飛騨市空き家等対策協議会を設置し、平成29年度に空き家対策計画を決定。同年に行政区長を通じ、危険な空き家を調査させていただき、市全域で34件あることが判明した。その中でも更に道路等に倒壊の恐れがあるなどの著しく危険な空き家が10件ほどあることがわかったことから、建築士会に調査を依頼し、その中の2棟を「特定空き家」と言われる非常に危険な空き家として指定したところ。うち1棟は法に基づき、助言、指導、勧告を行い、今後は命令という手順に入っていく。残りの1棟は幽霊会社の所有ということ

で、今後は略式代執行という形で進めていくことになると考えており、今月 25 日の協議会で検討していくところ。

【藤井部長】 J 委員からの社会的孤立の方等への相談支援の充実について、仕事の失敗のトラウマで働けない、無収入、地域からの孤立、精神疾患など様々な問題により引きこもりや社会的孤立の状態にある方が増加傾向にある。社会生活における自己肯定感を高めながら生活リズムや社会適応能力を向上させていく支援を、生活困窮者自立支援員 2 名と暮らしの相談員 1 名の計 3 名体制で伴走支援という形で行っており、段階を追って支援をしているが、相談件数が増加していることに加え、内容が多様化、複雑化してきていることから、支援員を 1 名増やし 4 名体制で支援を拡充していこうと考えているところ。

結婚・婚活の支援については、継続事業であるが 3 点ある。1 点目は全国の方々とネットワークを用いて出会いイベントのようなことを実施する。2 点目は飛騨 3 市 1 村の生活圏域で連携したマッチング支援、3 点目は市社会福祉協議会による市内での出会いサポート。引き続きこの体制を維持していきたい。

【青垣部長】 G 委員からの担い手不足については、昨年、古川地区の大きな担い手農家が撤退されたことを契機に、農業支援協議会農地部会と各地区の改良組合長にお集まりいただいて今後の対応を検討したところ。担い手の不足は喫緊の課題であり引き続き検討してまいりたい。

うまいお米の販促支援については、米の独自ブランドの栽培研究を行っていききたいと考えており、うまいお米研究会が中心となり進めていくもの。そのほか米・食味分析鑑定コンクールの出品支援などに取り組んでまいる。

【会長】 私から 1 点あるが、昨年の 7 月豪雨の関係で全国区の住民避難行動調査が行われ、14 人が亡くなられた熊本の千寿園という高齢者施設を視察してきた。この施設では 1 階から 2 階に上げられなかったことが原因で亡くなっている。これを国も非常に問題視しており、法律改正で高齢者福祉施設に対し避難確保計画の策定と職員研修や避難訓練の実施が義務化された。

E 委員からのお話にもあったが、今のスタッフで出来るのかという声を色々なところで聞いている。地域で連携し体制を整備する必要がある、県も実施していくと言われているが、市もご検討をいただく必要があり大切なことではないかと考えている。

本日は、皆様からそれぞれご専門の立場からに加え、さらに一市民としての生活の中から感じることも踏まえて、多岐にわたりご意見を頂いた。多くのことは検討中であつたかと思うが、課題であることも見つかったのではと思う。引き続き来年度の事業に加えて、新しい政策をご検討いただければと思う。

特になし

7. 閉会【湯之下副市長】

昨年 of 定額給付金の際、安全性の観点からマイナンバーカードが活用出来ないことが問題視され、行政サービスの質の向上ということで、政府はデジタル改革を進めようとしている。一方、個人情報の問題などから障がいが多く、公平性、透明性、安全性をどう担保していくかが大きな課題となっていると認識している。

飛騨市行政において政策を進める上では、同じように後悔が大切だと思っており、本日の資料では政策協議シートもご覧いただいたが、こうした資料をどれだけ公開し、またどれだけ市民の皆様に参画して頂くかが改めて大切だと認識したところ。その意味でも、委員の皆さまには今後とも様々なご意見を頂くとともに、周辺の皆さまにもお伝え頂ければと思う。

以上をもって本日の審議会を閉じる。